

単元名	3年「あまりのあるわり算」	組		番		氏名	
-----	---------------	---	--	---	--	----	--

R3 4 (1)

【第3学年】 A 数と計算

こはるさんたちは、今までに学習してきた、いろいろなわり算の問題についてふり返っています。

(1) ボールが23個あります。1箱にボールを6個ずつ入れていきます。



全部のボールを箱に入れるには、何箱あればよいかを求めるために、下の計算をしました。

$$23 \div 6 = 3 \text{あまり } 5$$

全部のボールを箱に入れるには、少なくとも何箱あればよいかを書きましょう。

正答率 83.1%

4 箱

単元名	3年「あまりのあるわり算」	組	番		氏名	
-----	---------------	---	---	--	----	--

H30B5 (1)

さくらさんたちは、学校の黒板に輪かざりをつけようと思い、先生から折り紙をもらいました。折り紙の枚数は100枚でした。

1枚の折り紙からは、折り紙の輪を5個作ることができます。

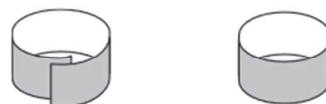
折り紙の輪を30個つなげて、輪かざりを1本作ります。

輪かざり1本の作り方

① 折り紙を同じはばで5つに切ります。



② 切った折り紙のはしの部分にのりをつけて、もう一方のはしの部分と重ねてはりあわせると、折り紙の輪が1個できます。



③ 折り紙の輪を次のようにつなげていきます。



④ 折り紙の輪を30個つないだものを、輪かざり1本とします。

さくらさんたちは、図1のように、横の長さが7mの黒板を、50cmずつに区切って、上の部分に輪かざりを1本ずつたるませながらつけよう計画しています。

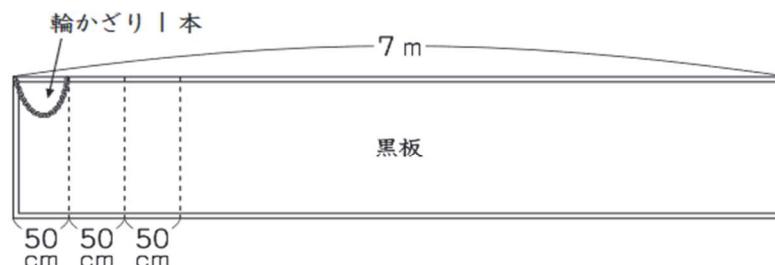


図1

(1) 横の長さが7mの黒板の、はしからはしまで輪かざりをつけるためには、折り紙の枚数が100枚あれば足ります。

そうたさんは、そのわけを、次のように説明しようとしています。

【そうたさんの説明】

黒板の横の長さは7mなので700cmです。

黒板のはしからはしまで輪かざりをつけるために必要な輪かざりの本数は、 $700 \div 50 = 14$ で、14本です。

【そうたさんの説明】に続くように、折り紙の枚数が100枚あれば足りるわけを、式や言葉を使って書きましょう。

正答率 43.5%

(例) 黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の輪の個数は、 $30 \times 14 = 420$ で、420個です。必要な折り紙の枚数は、 $420 \div 5 = 84$ で、84枚です。
だから、折り紙は100枚あれば足ります。